

損保ジャパン記念財団・福祉マネジメント研究会シンポジウムを開催しました

10月12日(土)東京都新宿区の公益財団法人テクノエイド協会にて、「損保ジャパン記念財団・福祉マネジメント研究会」のシンポジウムを開催しました。福祉サービスを、提供するNPO、社会福祉法人等の経営者・管理者、関連企業の方々などの方に多数ご参加いただきました。

福祉マネジメント研究会（主査：大橋謙策氏）では、マネジメント手法による社会福祉を支える人材教育について研究しており、その成果をとりまとめた「損保ジャパン記念財団叢書80号 福祉分野における社会企業の創業・展開と人材育成（平成24年3月）」を発刊しました。今回はこの叢書をもとに「ニーズ対応福祉サービス開発とNPOの経営ー福祉サービス開発の視点と方法ー」をテーマとしたシンポジウムを開催しました。

まず始めに以下①～④に則して、大橋主査から研究会の経過とシンポジウムの趣旨の説明を行いました。

- ①「社会福祉に普遍化」が意味するものと、地域福祉展開における社会福祉法人の位置・役割
- ②地域における新たな助け合い（住民と行政の協同による新しい福祉）について
- ③コミュニティーソーシャルワークの機能
- ④福祉サービス開発の視点と方法

続いて4名のパネリストの発表に移りました。まず池田さんから、全国の新しいサービスや創造的な動きについての紹介があり、戸枝さんからは住民のニーズをキャッチし、組織経営として対応し、サービスにつなげているかの実践を紹介していただきました。越智さんからは社会福祉協議会と行政、商工会、観光協会、学校など地域全体が連携して成功している事業の事例を紹介いただき、最後に中島さんから「安心生活創造事業」の成果についてご報告いただきました。

福祉サービスは、特定の限られた人々が利用するサービスから、全ての国民を対象に、ライフステージごとに個人の尊厳が尊重され、豊かな生活を送るためのサービスとして普遍化され、さらなる創造的なサービス開発が求められる時期に来ています。今回のシンポジウムは、福祉サービス開発の担い手の皆様と日本各地で展開されているニーズ対応福祉サービスの開発や創造的な取り組みを共有するよい機会となりました。

【シンポジウムにご参加いただいた皆様】

パネリスト：池田 昌弘氏（特定非営利活動法人

全国コミュニティーライフサポートセンター代表）

戸枝 陽基氏（社会福祉法人むそう理事長）

中島 修氏 (文京学院大学准教授、前厚生労働省社会・
援護局 地域福祉課地域福祉専門官)

越智 和子氏 (香川県琴平町社会福祉協議会事務局長)

コーディネーター：大橋 謙策氏 (公益財団法人テクノエイド協会理事長)